

電波資源拡大のための研究開発 平成19年度継続案件評価結果

案件名	実施期間	評価会での主なコメント	評価点
基幹用ミリ波帯無線伝送システムの実現のための基盤技術の研究開発	H17～20	<ul style="list-style-type: none"> 一部計画の前倒し実施等、年度当初の計画以上の成果が出ており、評価できる。 次年度の実施計画、体制、予算計画とも目標達成に向けた妥当なものである。 特許出願、外部発表等、相応の取り組みを行っている。 70～100GHz帯増幅器については、目標達成のために一層の努力が必要。 	3.8
無線アクセス用ミリ波帯無線伝送システムの実現のための基盤技術の研究開発	H17～21	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初の計画はおおむね予定どおり実施されており、十分な成果が得られている。 次年度の実施計画、体制、予算計画とも目標達成に向けた妥当なものである。 特許出願、外部発表等、相応の取り組みを行っている。 3つの研究機関間の連携を一層強め、総力を挙げて目標達成を目指してほしい。 	4.0
ミリ波帯無線装置の高効率化技術の研究開発	H17～20	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初の計画はおおむね予定どおり実施されている。 次年度の実施計画、体制、予算計画とも目標達成に向けた妥当なものである。 海外を含め多数の特許申請があり、高く評価できる。 	3.9
ミリ波帯無線装置の低コストの小型ワンチップモジュール化技術の研究開発	H17～20	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初の計画はおおむね予定どおり実施されている。 次年度の実施計画、体制、予算計画とも目標達成に向けた妥当なものである。 特許出願について積極的に取り組んでいるが、論文発表についても期待。 	3.9
ミリ波ブロードバンド通信システム用アンテナ技術の研究開発	H17～21	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初の計画はおおむね予定どおり実施されている。 次年度の実施計画、体制、予算計画とも目標達成に向けた妥当なものである。 特許、論文発表等に対する一層の取り組みを期待。 MMICによるスイッチの損失を改善する必要がある。 	3.7
ミリ波帯高速移動体通信システム技術の研究開発	H17～21	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に若干遅れ気味の印象を受けるが、システムの構成部品の検討は着々と進んでいる。 次年度の実施計画、体制、予算計画とも目標達成に向けた妥当なものである。 特許、論文発表等に対する一層の取り組みを期待。 システム設計が十分になされていない印象を受ける。 	3.4
ミリ波帯高精細映像伝送技術の研究開発	H18～21	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初の計画はおおむね予定どおり実施されており、完成度も高い。 次年度の実施計画、体制、予算計画とも目標達成に向けた妥当なものである。 新領域の研究課題であり、特許、論文発表等への積極的な取り組みを期待。 	4.3
高速・高精度測定技術の研究開発	H17～19	<ul style="list-style-type: none"> 若干遅れ気味の印象を受ける項目もあるが、年度当初の計画はおおむね予定どおり実施されている。 次年度の実施計画、体制、予算計画とも目標達成に向けた妥当なものである。 特許、標準化、論文発表等に対する積極的な取り組みに期待。 統合システムの仕様検討を早期に行い、個別技術の開発にフィードバックした方が良い。 	3.9
空間分布電力測定技術の研究開発	H17～19	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初の計画はおおむね予定どおり実施されている。 次年度の実施計画、体制、予算計画とも目標達成に向けた妥当なものである。 特許取得、論文発表等に対する取り組みが弱い。積極的な取り組みに期待。 最終達成目標の具体的なイメージを明確にして推進することが求められる。 	3.6
コグニティブ無線通信技術の研究開発	H17～19	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初の計画はおおむね予定どおり実施されており、研究課題毎に十分な成果が得られている。 次年度の実施計画、体制、予算計画とも目標達成に向けた妥当なものである。 特許、標準化等に積極的に取り組んでおり、高く評価できる。 自社システム内での運用に限定することなく、アドホック的なシステムや他社システムを想定した検討も必要。 	4.3
空間軸上周波数有効利用技術の研究開発	H17～19	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初の計画と実施結果の関係が若干不明確であるが、一定の研究成果が得られている。 端末への実装を考慮し、最終的にどのようなアンテナを開発するのか等の仕様を明確にすべき。 チャレンジングな研究課題に取り組む成果を上げており、国際的に日本の先導性を示してほしい。 予算規模に見合った有効な研究成果を期待する。 	3.8

電波資源拡大のための研究開発 平成19年度継続案件評価結果

案件名	実施期間	評価会での主なコメント	評価点
超伝導フィルタ技術の研究開発	H17～19	<ul style="list-style-type: none"> ・チャレンジングな課題であるが、年度当初の計画がおおむね予定どおり実施されている。 ・次年度の実施計画等はおおむね妥当であるが、最終目標の達成に向けて一層の効率的な実施を期待。 ・特許取得、学会発表に積極的に取り組んでおり、評価できる。 	3.6
コグニティブ無線端末機の実現に向けた要素技術の研究開発	H17～19	<ul style="list-style-type: none"> ・一部計画の前倒し実施等、年度当初の計画以上の成果が出ており、高く評価できる。 ・次年度の実施計画、体制、予算計画とも目標達成に向けた妥当なものである。 ・特許及び標準化に対する取り組みも積極的であり、評価できる。 ・個別技術の統合化が重要であり、方針を明確にして推進することが必要。 	4.4
800MHz帯映像素材中継用移動通信システムの高度化のための研究開発	H18～21	<ul style="list-style-type: none"> ・一部計画の前倒し実施等、年度当初の計画以上の成果が出ており、評価できる。 ・次年度の実施計画、体制、予算計画とも目標達成に向けた妥当なものである。 ・特許、標準化、論文発表の実績が未だ無いが、今後の積極的な取り組みに期待。 	4.0
高マイクロ波帯基盤技術の高度化のための研究開発	H17～21	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初の計画はおおむね予定どおり実施されている。 ・次年度の実施計画、体制、予算計画とも目標達成に向けた妥当なものである。 ・特許の出願件数が必ずしも多いとは言えず、一層の取り組みを期待。 ・MEMSの高周波利用、小型化、低電力化を目指すこと。 	4.0
高マイクロ波帯用アンテナ技術の高度化技術の研究開発	H18～21	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初の計画はおおむね予定どおり実施されている。 ・全体として、システムとして、要素技術として、計画を練り直さなければならない点がある。 ・知財化への取り組みが十分ではない。 ・目標とするコスト、アンテナ性能を明確にした上で、その実現に向けた実施計画を立てるべき。 	3.7
クライストロン送信機デジタル波形形成技術及び固体素子等を用いたレーダー技術の研究開発	H17～19	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初の計画はおおむね予定どおり実施されている。 ・次年度の実施計画、体制、予算計画とも目標達成に向けた妥当なものである。 ・特許、論文発表、標準化に対する取り組みが不十分。 ・超伝導フィルタの開発の位置づけを明確にすること。 	3.7
マグネトロンのスプリアス低減技術及びレーダーの測定技術の研究開発	H17～19	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初の計画はおおむね予定どおり実施されている。 ・次年度の実施計画、体制、予算計画とも目標達成に向けた妥当なものである。 ・ITU-Rへの寄与はあるが、特許、論文発表への取り組みが不十分。積極的な取り組みに期待。 ・具体的な技術的課題が何であり、それを如何に解決したかについての説明が不十分。 	4.1
衛星通信と他の通信の共用技術の研究開発	H18～19	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初の計画はおおむね予定どおり実施されている。 ・次年度の実施計画、体制、予算計画とも目標達成に向けた妥当なものである。 ・特許取得、論文発表等に対する取り組みが弱い。積極的な取り組みに期待。 ・複数干渉の場合に、シミュレーション結果と異なる原因を明確にしてほしい。 	3.7
偏波多重衛星通信技術の研究開発	H18～20	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初の計画はおおむね予定どおり実施されている。 ・次年度の実施計画、体制、予算計画とも目標達成に向けた妥当なものである。 ・特許取得、論文発表等に対する取り組みが弱い。積極的な取り組みに期待。 ・早々にシステム設計を行い、アンテナ特性についての目標性能を明確にすべき。 	3.7
衛星通信用中継器における周波数高密度利用技術の研究開発	H18～21	<ul style="list-style-type: none"> ・一部計画の前倒し実施等、年度当初の計画はおおむね予定どおり実施されている。 ・次年度の実施計画、体制、予算計画とも目標達成に向けた妥当なものである。 ・特許、学会発表など初年度としては妥当。 ・成果目標をより明確に設定し、その実現に向けての実施計画を立てることが重要。 	4.3